

---

# 満月の夜に

彌釣

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

満月の夜に

### 【著者名】

Z8496D

### 【作者名】

彌釣

### 【あらすじ】

満月の夜に告白する少女少年はそれを受け止める

(前書き)

満円の事を思い書きました

「」とある、家の中で平凡な暮らしをしている少年は月を見ていた。  
「今日は半円だな」と独り言を呴いていた、しかし少年はある少女に告白するためにどうしても満月の夜じゃないと駄目だということが発覚していた。

それは・・・とある昔の事、少女が「私は貴方ことだが」と告白しようと思っていたが、少年はそれを塞ぐように「今ここで言ひちゃ駄目だよ」といった。少女は「えつ」と思つたやして「なんで好きじゃないから? それとも何かしらの理由があるの?」と疑問に思つた。少年はちよつと間を空けて

「僕は君の事が好き 好きだけど俺は君を月に見える。月ってね夜に成ると輝くんだよ。だから今此処で告白しちゃあいけない無いんだよ。」と少年は言つた。

少女は

「分かつたじや あその時に気持ち聞くね」と少年に言つた  
少年はこくり、首を縦に振つた。今日は満月だ告白して幸せに慣れる日だ。

少女はがんばつて此処まで来た事を悟り少年を待つた  
少年は

「君の事は好きだ…けどこの満月の夜に輝き続ける事を祈ろづ」  
そう願わくばこの満月の夜の様に少女は満月を見て微笑み少年がくるのを待つてゐる

満月の様に美しく輝く様に願つてゐた

少年は來た。髪型が黒じやなく、紫の髪になつてたが、それでも少女は少年に告白をする 少女は

「答えは?」と聞く少年はそれに反応して  
「もちろんOKだよ」とこりと微笑み言つ。

満月はこの一人を見守つてゐ、幸せという暖かさを體るよつた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8496d/>

---

満月の夜に

2011年1月21日15時23分発行